
2024 年 8 月 17 日(土)夜 『神聖で繋がり合う日』 メール前文

テーマ『神聖の自己認識を標準装備するために』

『人間と真実の生き方』

人間は本来、神の分^{わけ}霊^{たま}であって、業^{ごう}生^{しょう}ではなく、つねに守護霊、守護神によって守られているものである。

この世のなかのすべての苦悩は、人間の過^か去^こ世^せから現在にいたる誤てる想念が、その運命と現われて消えてゆく時に起る姿である。

いかなる苦悩といえど現われれば必ず消えるものであるから、消え去るのであるという強い信念と、今からよくなるのであるという善念を起し、どんな困難のなかにあっても、自分を赦し人を赦し、自分を愛し人を愛す、愛と真と赦しの言行をなしつつけてゆくとともに、守護霊、守護神への感謝の心をつねに想い、世界平和の祈りを祈りつつけてゆけば、個人も人類も真の救いを体得出来るものである。

『人間と真実の生き方』の冒頭には、私たちが何よりも初めに身に修めるべき大切な事実が書かれています。それは、「人間は本来、神の分^{わけ}霊^{たま}であって、業^{ごう}生^{しょう}ではなく、つねに守護霊、守護神によって守られているものである」の部分です。

この箇所は、私たちが世界平和の祈りを祈り、光明一元思考に徹し、万物に感謝を捧げるとともに、宇宙神の光を身に修めて各種の印を組みつつけてゆくうえで、一番初めに信じ、確信する段階を経て、当然認識にすべき部分であります。

人はそのようなプロセスを経て、「すべてに神聖が宿っている真実」を当り前のこととして見られる意識境涯に戻ってゆきます。そのためにはそこに書いてある言葉を、“人間全般のこと”として捉えるのではなく、“自らのこと”として捉え、腑に落とす必要があります。

『人間と真実の生き方』を数回読んだだけで、その真理を自覚して自らの想念言行に顕わせる上根の方は別として、我々のような一般の人間は、数え切れないくらい書き写したり声に出して読んだり等の努力をとおして、そこに書かれている真実を信じられるようになり、確信の段階を経て、当り前の認識に出来ます。

その次の節で、「この世のなかのすべての苦悩は、人間の過^か去^こ世^せから現在にいたる誤てる想念が、その運命と現われて消えてゆく時に起る姿である」とあり、最後の節で、「いかなる苦悩といえど現われれば必ず消えるものであるから、消え去るのであるという強い信念と、今からよくなるのであるという善念を起し、どんな困難のなかにあっても、自分を赦し人を赦し、自分を愛し人を愛す、愛と真と赦しの言行をなしつつけてゆくとともに、守護霊、守護神への感謝の心をつねに想い、世界平和の祈りを祈りつつけてゆけば、個人も人類も真の救いを体得出来るものである」とあります。

冒頭の節を腑に落とさないままに、二番目の節を信じようとしても、最後の節を実行しようとしても、習慣の想いに流されがちになってしまい、『人間と真実の生き方』の実行がおざなりになりがちです。それは、「消えてゆく姿で世界平和の祈り」をしようとしても、過去世からの習慣の想いに流されている姿だといえます。

直近の電話メッセージで、神聖復活の印を組むうえで、「私は神聖の存在なんだ」「我即神也の私が神聖復活の印を組むのだ」といった意識の初期設定が大切であるといった趣旨の、私達の意識レベルを引き上げてくださるお話が明言されていました。それは、『人間と真実の生き方』の冒頭箇所を、自分のこととして想念言行に顕

現するための日々の練習によって可能になります。

こうした意識の柔らかい部分を刺激して変貌を促す取り組みは、本来誰かに云われて行なうことではなく、
個々人が自発的かつ内面的に実践すべき事柄です。

ですから、他者と共有することは難しい内容ではありますが、土曜日の夜は『神聖で繋がり合う日』のタイトルにありますように、顕在意識と潜在意識の奥にある神聖の記憶での繋がり合いを思い出す日ですので、これまでも行なってきましたが、今回も私たち自身の”神聖の自覚”を促すためのプログラムを行ないます。

またいつものように、すでに神聖の自覚を自己のものとし、神聖の想念・言動行為を当り前になさっておられる先達の方々におかれましては、もう少しでその境地へ行ける方々を後押ししていただきますようお願い申し上げます。

2024 年 8 月 17 日(土)夜 『神聖で繋がり合う日』 初めの話 9 分 30 秒

皆様、こんばんは。夜のズーム祈りの会を始めます。

本日から何回かに分けて、『人間と真実の生き方』の実践に焦点をあてたプログラムを行ないます。『人間と真実の生き方』は、白光の真理に触れた私たちが、世界平和の祈りとともに一番最初に触れる文章です。

私たちの心のなかを観てゆきますと、『人間と真実の生き方』との関わり方、またその位置づけやその取り組み方は、当然のことですが、一人一人違うと思います。

ある人は「自身のバイブル」「金科玉条の言葉」として、ある人は「お題目のように唱えるべき文言」として、ある人は「自らに顕わすべき理想の生き方」としてなど、それぞれのとらえ方があると思います。私は、”人間の真実の在り方”と”宇宙の真理に沿った生き方”がそこに書かれていると思っておりまして、「自らに顕わすべき理想の生き方」としてとらえています。

私が昭和の時代から考えつづけてきたことは、「どうすればここに書かれている内容を自らに顕わせるだろうか」ということでした。そこで思いついたことは、心の奥底にまで落とし込んで、自分自身の考え方にするために、何度も声に出して読み、何度も書き写そうということでした。

それで、20 代の前半の頃は、そのことに本当に真剣に取り組みました。また、青年から中年の時期はそれなりに、老年に差し掛かった今は、そこに書かれている内容を、本当に自らの想念・言葉・行為に行ない顕わしたいと思って過ごしています。

今の時点でははっきりと言えることは、そこに書いてある言葉は真(まこと)の言葉、真言であり、私にとって、「五井先生が書かれたお言葉」や「白光の教義」にとどまらず、「私自身の生き方、考え方、人生そのもの、信念そのものであり、嘘偽りなくその通り生きられるように努めている」ということです。

そこで、「神聖の存在」として自らを認識することが、私たちの喫緊の課題となっている 2024 年 8 月 17 日の今、『人間と真実の生き方』の冒頭に書かれている最初の一節に焦点をあてて、私たちひとりひとりが、自身の心と向き合ってみたいと思います。

なぜなら、そこに書かれている「人間は本来、神の分^{わけ}霊^{みたま}であって、業^{ごう}生^{しょう}ではなく、つねに守護霊、守護神によって守られているものである」という箇所が、現在の私たちの課題である「自らを神聖の存在として認める」ための答え、回答になっているからであります。

この「人間は本来、神の分^{わけ}霊^{たま}であって、業^{ごう}生^{しょう}ではなく、つねに守護霊、守護神によって守られているものである」の言葉が、自らの生き方そのもの、思考の源になっていれば、私たちは現時点で神聖の存在として、神そのものの想念・言動行為を顕現することが出来ます。

「人間は本来、神の分^{わけ}霊^{たま}であって、業^{ごう}生^{しょう}ではなく、つねに守護霊、守護神によって守られているものである」という箇所は、他人からどれだけ教わっても自らの生き方にできることはありません。

「そこに書かれている事柄を、是が非でも自らの想いや言動行為に顕わそう、顕わすんだ」「私自身の生き方に昇華しよう」という命をかけた発心を元にした取り組みをすることで、私たち自身が『人間と真実の生き方』の生きた見本、お手本（歩く『人間と真実の生き方』）になることが出来ます。

2024 年の現代はもう、「五井先生は素晴らしい」と師を褒め称えるにとどまっていよいよ時代ではありません。「あなた方は五井昌久の化身である」と五井先生御自らにおっしゃっていただいたそのお言葉に応え、私たち自身が小さな五井先生として、神聖の存在としての想念・言動・行為を自らに顕現して生きる時代であります。そのことを意識して、本日のプログラムに入ってまいりたいと思います。

それでは時間になりますので、はじめに、世界平和の祈りを日本語と英語で行ないます。

1. 世界平和の祈り

世界人類が平和でありますように。
日本が平和でありますように。
私たちの天命が完うされますように。
守護霊様、ありがとうございます。守護神様、ありがとうございます。

May peace prevail on Earth.
May peace be in our homes and countries.
May our missions be accomplished.
We thank you, Guardian Deities and Guardian Spirits.

2. 自分自身へ向けた『人間と真実の生き方』の読み上げ

はじめに、最初の一節を 7 回繰り返して唱えます。

私は本来、神の分霊であって、業生ではなく、つねに守護霊、守護神によって守られているものである。（×7 回）

次は、全体を 1 回唱えます。

私は本来、神の分霊であって、業生ではなく、つねに守護霊、守護神によって守られているものである。

この世のなかに私が感じるすべての苦悩は、私の過去世から現在にいたる誤てる想念が、その運命と現われて消えてゆく時に起る姿である。

いかなる苦悩といえど現われれば必ず消えるものであるから、消え去るのであるという強い信念と、今からよくなるのであるという善念を起し、どんな困難のなかにあっても、自分を赦し人を赦し、自分を愛し人を愛す、愛と真と赦しの言行をなしつつけてゆくとともに、守護霊、守護神への感謝の心をつねに想い、世界平和の祈りを祈りつつけてゆけば、個人も人類も真の救いを体得出来るものである。

3. 神聖を自覚する呼吸法（呼吸法の唱名）

神聖復活の印のときの呼吸法で 5 分間、呼吸法の唱名を行ないます。

1. はじめに、息を深く吸いながら、心の中で「我即神也」と唱えます。
2. 次に数秒間、息を止めて、心の中で「成就」と宣言します。
3. 最後に、息を静かに吐きながら、心の中で「人類即神也」と唱える。

※そのときには、目の奥までしっかりと息を吸い込む事と、息をしっかりと吐き切ることを意識して行ないます。ペースはご自分のペースで行なってください。それでは今から 5 分間行ないます。

ありがとうございました。

4. 神聖復活の印

次は、神聖復活の印です。「はい」の合図で、ご一緒に宣言をしてお組みください。7 回連続を 3 セット行ないます。それでは始めます。はい。

<一回目の宣言>

神聖そのものの私達が大自然を抱きしめながら、宇宙神の光を送ります。

[神聖復活の印を七回連続]

<二回目の宣言>

神聖そのものの私達が生きとし生けるものを抱きしめながら、宇宙神の光を送ります。

[神聖復活の印を七回連続]

<三回目の宣言>

神聖そのものの私達がすべての人類を抱きしめながら、宇宙神の光を送ります。

[神聖復活の印を七回連続]

以上